

# 親木と若木

小川未明

青空文庫



なんでも、一本ほんの木きが大きいおおになると、その根ねのところところに、小ちいさな芽めが生はえるものであります。

孝こうちゃんの家いえの垣根かきねのところところに、山吹やまぶきがしげっていました。

ふさふさとして、枝えだはたわんで黄金色こがねいろの花はなをつけていました。

日ひの光ひかりは、広ひろ々とした庭にわの面おもてにあふれていましたから、この花はな

の上うへをも照てらしたのであります。花はなには、みつばちがたかり、暖あたた

かな風かぜが、おだやかに接吻せつぶんしていました。

この山吹やまぶきの根ねもとには、新あたらしい芽めが、幾いく本ほんも土つちを破やぶつて頭あたま

を出だしていました。そして、自分じぶんたちの頭あたまにおおいかかっている、

幾いくつかの枝えだのすきまから、かすかにもれてくる日ひの光ひかりを受うけて、

早く、大きく伸びて、枝と枝の間を分けて、自分たちも広い世界に出ようとしたのであります。

山吹は、子孫のしげることを誇りとしていました。もつと、もつと株が大きくなって、みんな、輝く黄金色の花をつけたら、どんなにみごとなことであろうと思つと、自から、その日の有り様を空想して、うつとりとせずにはいられませんでした。

けれど、たくさんに頭を出した子孫が、みんな幸福であろうはずがなかったのです。広やかな庭のひなたの方に芽を出したものは、自由に伸びることはできなければ、反対に、垣根を越して、北の寒い、日蔭に、不幸にも頭を出したものは、どんな憂きめを見たことでしょうか。

ちようど、そこには、竹たけの棒ぼうや、朽くちかかつた杭くいのようなものや、割われた煉瓦れんがなどが積つみ重かさねられてあつて、せつかく、芽めを出だしたけれど、柔やわらかな頭あたまを、それらの無むじよう情じやうな物ぶつ体たいにくじかれ、曲まがりくねつて、わずかに、艶つや気けのない青葉あおばをつけているにすぎませんでした。そして、おそらく、そこに、こうした、不幸ふこうな山吹やまぶきの苗なえが、存そんざい在ざいしているということは、みつばちをはじめ、毎まい日にち、そこらへきて、口くちやかましくおしやべりをするすずめたちにも、気きがつかなければ、また口くちの端はにも上のぼることはなかつたのでした。

ある日ひ、勇ゆう二じは、孝こうちゃんの家いえへ遊あそびにきて、庭にわへ出でて山吹やまぶきの花はなをながめながら、垣根かきねの外そとへまわると、ふとそこに、不幸ふこうな

苗なえが、みんなから離はなれて、生はえていることに気きがついたのです。

勇二ゆうじは、なんとなく、その山吹やまぶきの苗なえをかわいそうに思おもいました。もし、このままにしておいたら、ついには伸のびもせず、枯かれてしまうだろうと思おもいました。

「孝こうちゃん、僕ぼくに、この山吹やまぶきの芽めを一本ぼんおくれよ。」と、勇二ゆうじは頼たのんだのであります。

「ああ、たくさん殖ふえて困こまるのだから、君きみの好きすきなを一本ぼんこいで、持もってゆきたまえ。」と、孝こうちゃんはいいました。

「いいえ、僕ぼくは、この垣根かきねの外そとにある、やせて、かわいそうな、これこれでいいのだ。」

「なぜ、そんな元氣げんきのないのを持もっていくんだい。枯かれるかもし

れないよ。」

「だいじょうぶだよ。」

「なかなか、花が咲かないぜ。」

「来年になったら、咲くかもしれない。」

勇二は、孝ちゃんが、不思議がるのを、自分は、かわいそうに

思うところから、ていねいに、なるだけ根をたくさんつけるよう

にこいで、それを持って帰ると、自分の家の庭に植えたのであり

ます。

「お母さん、山吹をもらってきて植えましたが、花が咲くでし

ようか。」と、勇二は、お母さんにきいたのでありました。

お母さんは、勇二が、庭に植えた、山吹のところへ出て、見

られました。

「まあ、この木は、日蔭ひかげに生はえていたのだね、丹精たんせいしておやり。そうすれば、ここは、日ひもよく当あたるから大おおきくなって、花はなが咲さかないともかぎらないから。」といわれたのです。

勇二ゆうじは、水みずをやったり、また、犬いぬや、ねこが踏ふまないように、棒ぼうを立ててやったりしました。しかし、芽めを出だしたときから、自し然ぜんにいじめられてきた山吹やまぶきは、ちょうど、人にんげん間でいえば不具ふぐ者しゃのように、なかなか伸のびもしなければ、大おおきくもなりませんした。

あの、一年ねんじゅうたつても、日ひの当あたらないところにいたことかんがを考かんがえれば、いまの山吹やまぶきの身みの上うえは、どれほどかしあわせには



相違そういなかつたけれど、やはり、長い月日ながつきひの間あいだには、いろいろなつらいこともあれば、思いおもがけない不幸ふこうなめにも出であつたのです。ある日ひ、犬いぬがやってきて、哀あわれな山吹やまぶきの枝えだを一本ほんかみ切きつてしまいました。

「悪い犬わるいぬだ、こんどきたら、ひどいめにあわせてやろう。」と、勇二ゆうじは、山吹やまぶきを見みながらいいました。けれど、もはや、こんなになつてしまつた山吹やまぶきは、どうすることもできませんでした。

いつしか、秋あきとなり、冬ふゆとなりました。冬ふゆには、寒さむい、寒さむい日ひがつづいたのでした。地面じめんは凍こおつて、堅かたくかちかちとなりました。そして、草くさの葉はや、木きの葉はは、霜しものために傷いたんでそのころまで残のこつていたものもあつたけれど、それすら見る影みかげもなかつたのであ

ります。山吹やまぶきの細ほそい茎くきも凍こおつて、しぼんでしまいはしないかと  
思おもわれましました。

しかし、山吹やまぶきは、この寒かん気きと戦たたかつて、ついまに負まけませんでし  
た。やがて、春はるがめぐつてきたときに、緑みどり色いろの芽めを、哀あわれな  
曲まがった枝えだに萌もやしたのであります。

去き年よねんの春はるは、あの日ひ蔭かげにあつたが、今ことし年は日ひがよく当あたるの  
で、その葉はの色いろは光つ沢やがありました。

勇ゆう二じは、山吹やまぶきのいきいきとした姿すがたを見ると、喜よろこんで、その小ちい  
さな木きの根ねに肥ひり料ようを施ほどこしました。

日ひの光ひかりが十分ぶんに当あたり、それほどこに、施ほどこした肥ひり料ようがよくきいたと  
みえて、山吹やまぶきは、夏なつのはじめに、黄こが金ね色いろの花はなを三さんつばかりつ

けました。

「お母さん、山吹が咲きましたよ。」と、勇二は、母に知らせました。

「おお、ほんとうに、三つばかりだけれど、よく、あんなに小さくて花をつけたもんだね。」と、母は、感心していわれました。

まことに、その姿は、いじらしくありました。いじけた木は、それより大きくなりませんでした。そして、また一年はたったのであります。

翌年の春になると、この小さな山吹の根もとから、新しい芽が地を破って、頭を伸ばしました。しかも、二本、三本といつしよに、その芽は、気持ちのいいほど、ぐんぐんと伸びたのであ

ります。

「お母さん、山吹から、あんなに新芽が出ましたよ。」と、勇

二は、母に告げました。

母は、勇二の告げる前から、それを知っていたようにです。

「ああ、山吹の子供なんだよ。」といわれました。

「お母さん、そんなら、この小さい、いじけたのが親なんですか

。」と、勇二は、いまさらのごとく驚いて、山吹に目を向けて

たずねました。

「おまえが、もらってきて植えたのが、親木になって丹精した

から、こんなにいる子供が産まれたんです。」と、母は答えられ

ました。

母のいうことを聞いて、勇二は、感心したのです。同時に、いろいろのことが、頭に浮かんできたのでした。

若芽は、ぐんぐん伸びてゆきました。そして、やがて、季節になつて、いっぱい、枝に、黄金色の花をつけました。けれど、親木は、子供に圧せられて、地面をはって、泥に葉が汚されて、見る影もなかったのです。

「お母さん、この親木はかわいそうですね。」と、勇二はいいました。

「いい子供が産まれて、親木は、それで満足して、枯れていくんですよ。人間も、かわりはありません。」と、母はいわれたのです。

勇二は、このとき、孝ちゃんの家から、もらってきた時分の山吹の姿を思い出しました。

しかし、いま、新しい山吹は、昔のことは知らず、花がたくさん咲いて、ちようや、はちが集まっていたのであります。

# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 5」講談社

1977（昭和52）年3月10日第1刷発行

※表題は底本では、「親木《おやぎ》と若木《わかぎ》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：雪森

2013年5月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp/) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。



# 親木と若木

小川未明

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>